

歴史で辿る中央大学

今年125周年を迎える中央大学。125周年の歴史の中には、様々なエピソードが存在します。中央大学創立125周年記念サイトでは、「歴史で辿る中央大学」として、本学の歴史にまつわるエピソードを紹介しています。今まで知らなかった中央大学の新たな一面を発見してみたいか、いかがでしょうか？

[Campus] 東京神田に英吉利法律学校開講

1885
“明治18”



開講当時の錦町と、新校舎

英米法を基にする法体系構築をめざし、増島六一郎らにより英吉利法律学校が開校した。校舎は東京府神田錦町。旧旗本屋敷を東京英語学校と共用し、和室を洋風に改造して教室にした。ここに中央大学の第一歩が踏み出された。同年、通信教育（校外生制度）もスタートする。1887年には煉瓦造りルネッサンス式の新校舎の一部が竣工。学生数は急激に増え同年10月には665名となる。設立の背景には法整備の急務があった。当時日本には民法がなく、欧米列強はその未整備により治外法権の撤廃に応じなかった。そのため官学2校*1と共に私学の法律学校*2も創立され、法整備と法曹の育成が図られようとした。

*1：司法省法学校及び帝國大学

*2：五大法律学校(英米法系)英吉利法律学校・東京専門学校(早大)・(公法系)東京法学校(法政大)・専修学校・明治法律学校(明大)

Time Machine Topics [大阪事件(過激な自由民権運動)]

朝鮮の改革派、金玉均らを支援して政変を起こし、国内改革に結び付けようとした過激な自由民権運動。爆弾の製造や資金集めの強盗も行った。

125周年記念サイトではこの他に、「わたしと中央大学」というコンテンツで、各界で活躍中の本学にゆかりのある方のエピソード紹介や皆さんからのエピソード投稿も受け付けています。ぜひ、皆さんのとっておきのエピソードを投稿してみてください。

中央大学創立125周年記念サイト <http://chuo125.jp>

編集室

「あなたの熱意に応えよう」。『惜別の歌』の作曲者、藤江英輔さんは、私が突然申し出た中央大学での講演依頼に、最後にこう言って応じてくださいました。

ことし5月、私は千葉県流山市で藤江さんの『惜別の歌』の講演を聞き、即座に、現役中大生の前でお話して欲しいと、厚かましくも講演のお願いを申し出たのです。

しかし、藤江さんの返事は「ノー」でした。「僕はきょうを最後の講演にするつもりです」と。ご高齢でもあり健康を気遣うが故でした。全国各地で講演されてきた藤江さんは、その日初めてお嬢さんを介添えに伴われていました。

でも、私はこの機は逃せられないと

思いました。卒業式で歌う『惜別の歌』を大半の中大生が知りません。その生い立ちを藤江さんご自身にお話しいただき、次代に継承したいと、二度三度お願いしたのです。

後日、藤江さんは「あなたの気持ち嬉しかったから、受けた」と言ってくださいました。藤江さんの懐（ふところ）の大きさを感じた次第です。

また藤江さんの「前座」を快諾してくださった門田隆将さんは、講演で「きょうは、(忙しい中)すべてを投げ打って、はせ参りました」と語られました。大先輩である藤江さんに対する敬愛の気持ち、そうさせたのだと思います。

お二人に共通する「熱い心」は、母校愛に根差しているの言うまでもありません。これぞ中央大学が引き継いできた「魂」です。
(編集長 伊藤博)

学生記者が取材・編集する大学広報誌

Hakumon

Chuo
ちゅうおう

2010

125周年記念号

2010年(平成22年)11月13日発行 No.218

発行 中央大学広報室

〒192-0393
東京都八王子市東中野742-1

〈編集担当〉

『Hakumonちゅうおう』編集室

☎042-674-2048

印刷 泰成印刷株式会社
〒130-0026
東京都墨田区両国3-1-12
☎03-3631-8141